

主論文の要旨

Intraoperative diagnosis of lymph node metastasis by transcription-reverse transcription concerted reaction assay in gastric cancer (TRC 法による胃癌リンパ節の術中転移診断)

東京女子医科大学第二外科学教室

(主任：亀岡信悟教授)

平山 亮一

International Journal of Clinical Oncology に掲載

DOI No.: 10.1007/s10147-013-0579-9 (Published online: 14 June 2013)

【要 旨】

遺伝子発現の定量的評価の臨床的有用性が明らかになっている。今回我々はリンパ節の洗浄液を利用して、迅速性・簡便性を有する **Transcription-Reverse transcription Concerted Reaction** 法（以下、TRC 法と略記）で **CEAmRNA** を定量的評価し、郭清リンパ節の転移診断を検討した。

胃癌手術症例 40 症例、郭清リンパ節 110 個を対象とした。リンパ節をメスにて十字割し、生理食塩水で洗浄。その洗浄液を検体として **CEAmRNA** を測定し、病理診断（**HE** 染色）と比較検討した。すべてのリンパ節に免疫染色のサイトケラチン染色（**CK** 染色）を加え、さらに比較検討した。

HE 染色で転移陽性は 29 個、陰性は 81 個、**TRC** で転移陽性は 38 個、陰性は 72 個であった。**CK** 染色で転移陽性は 37 個、陰性は 73 個であった。**CK** 染色と比較した **HE** 染色の感度は 78.4%、特異度は 100%であったのに対し、**CK** 染色と比較した **TRC** 法の感度は 91.9%、特異度は 94.5%であった。リンパ節切片の洗浄液を用いた **TRC** 法は、迅速性・簡便性を有する遺伝子診断であり、従来の永久標本の **HE** 染色よりも感度は高く、リンパ節全体を永久標本として温存できる。病理医が常駐しない一般病院でも迅速診断が可能となり、今後の胃癌における sentinel node 理論の臨床応用にも貢献すると考えられた。